

らしっく

自分らしく、粹なくらし

2009.12 Vol.25

風花号

かざはな／青々と晴れわたった日、
風に吹かれてちらつく雪のこと。
一説には、この時期にふる雪が
キラキラとして花のように見える
ことから「風花」と呼ばれるように
なったと言われています。

まちづくり・生涯学習情報誌

- 特集「情報発信の重要性」…………… P1
- らしっくコラム／らしっくキャンパス …… P4
- プラザ通信 …………… P5
- らしっく情報の森 …………… P9
- ひろしま八区イベントガイド…………… P11



「情報発信の重要性」

演奏を楽しんでいる姿が世の中への一番のPR●広島きらきら母交響楽団

最大の情報発信は、継続していくこと●NPO法人 セトラひろしま

私たちが商店街の賑わいを生み出す原動力になれば●比治山大学広告・マーケティング同好会 コーケル

「伝えることと伝わること」●NPO法人 中国キャリアコンサルタント研究会 平岡 節子

らしっくキャンパス●広島キャンパスフェスティバル実行委員会「LiNkx」



①10月10日(土)、11日(日)の「インディケットひろしま」では、音楽、ダンス、パフォーマンスなどさまざまなステージが催され盛況
②事務所内で、「インディケットひろしま」のフライヤーをデザインするボランティアスタッフの梶田さん。副理事長の石丸さんが内容をチェックし、アドバイスを



最大の情報発信は、 継続していくこと

〔NPO法人 セトラひろしま〕

事務局 ☎082-545-7611 <http://www.cetra.jp/npo/>

**イベントごとに
独立ホームページ**
セトラひろしまは2003(平成15)年、広島市中央部地域(センタリエリア=セトラ)の賑わいの創出や発展を目的に設立されまし

広島市内の繁華街では、常にさまざまなイベントが行われています。毎月開催の「アリスガーデンパフォーマンス広場Ah!」、昨年11~12月に行われ好評だった「HIROSHIMA1958 エレニエル・リヴァの広島展」、毎年恒例の「ゆかたでskin祭」や「えべっさん」など…。セトラひろしまはこれら多くのイベントに、主催や協力などで携わっています。



◀「インディケットひろしま」のチラシ。ホームページとデザインテイストを合わせてある

「インディケット」と検索すると、すぐに「インディケットひろしま」の独立したホームページに行き当たります。赤を基調にしたデザインに、手書きのイラストが配置され、知りたい内容にすぐ飛べるよう見やすくデザインされています。

パソコンで「インディケット」と検索すると、すぐに「インディケットひろしま」の独立したホームページに行き当たります。赤を基調にしたデザインに、手書きのイラストが配置され、知りたい内容にすぐ飛べるよう見やすくデザインされています。

た。広島を元気にする「街づくりイベント事業」や、緑化を推進する「グリーンプロジェクト」、美化清掃を進める「地域環境プロジェクト」など、活動のジャンルは多岐にわたります。

ホームページとデザインを合わせたフライヤー(チラシ)も制作します。配布先は協賛してくれらるお店など、とにかく多くのところへ。資料を広島市役所の市政記者クラブへ持参したり、タウン誌へニュースリリース代わりに送付するなどして各媒体に掲載を依頼します。

ホームページやフライヤー制作の多くは、セトラひろしまの事務所内で行っています。製作するのはボランティアスタッフの梶田良花さん。副理事長の石丸良道さんがパソコンの前で「ここをもう少し目立たせたら」などとアドバイスを加えながら完成させていきます。

続けることは PRすること

石丸さんは、人脈も広報の大事な要素と考えています。「普段から培ってきた人脈が、自分たちの情報を広げてくれる。時には、いい企画も舞い込んでくる」。そして人脈を培うコツは「継続すること。続けることが最大の自己PR」。セトラひろしまとしての信用が、自分たちの情報価値を高めると考えています。

「情報発信の重要性」

特集

ボランティア・市民活動を多くの方に知ってもらい、共感を得るためには広報活動が重要。自分たちの情報を発信することは、活動を継続するにあたって大切です。今回は広報活動をどう考え実践しているか、2つの団体に聞いてみました。

演奏を楽しんでいる姿が 世の中への一番のPR

〔広島きらきら母交響楽団〕

<http://kirakyo.web.fc2.com/> メール:hiroshima_kirakyo@yahoo.co.jp



◀11月7日(土)に安佐南区民文化センターで行われた第2回定期演奏会

子連れ練習OKの 和気あいあいオーケストラ

広島きらきら母交響楽団(きら響)は、主に子育て中のお母さんたちによるオーケストラです。

練習は木曜と土曜の昼間に行い、子どもと一緒に参加してもOKです。団員は現在約70名。「音楽仲間が見つかるサークルのような場所」を目指し、経験や演奏レベルは不問。とはいえ大きなホールでのコンサートなど高い目標を持って練習しています。

今年の11月7日には安佐南区民文化センターで第2回定期演奏会を開催し、大盛況でした。聴衆の多くが小さな子どものいる家族連れであるところが、普通のオーケストラと違う、きら響ならではの光景です。

「理念」を立てることが重要

団長の馬場京子さんが発起人となり活動をスタートしたのは2007(平成19)年9月。名古屋出身の馬場さんは3歳から高校生までバイオリンの個人レッスンを受け、それが現在の高度な演奏技術のベースになっています。

大学卒業後はテレビ、ラジオ番組制作のディレクターとして活躍。事前のリサーチから台本作り、撮影、編集まで、膨大な作業に携わりました。一昨年、配偶者の転勤により広島に越してくる直前に、NHK名古屋青少年交響楽団の50

周年記念コンサートにOGとして出演したことで、音楽熱が再燃。広島に来てすぐにきら響の活動を開始しました。

まず最初に行ったことは、「子連れOK、レベル不問」などの活動理念を定め、ホームページに掲げることでした。それから団員を募集。最初にコンセプトを固めたのは、「自分が声をかけられる立場だったら、どういう活動が分かなければ参加できない」という思いからです。

口コミが広報効果を倍増

きら響は、自主的に開く定期演奏会のほか、イベント主催者などから依頼される小規模な演奏会を年間20回程度行っています。定期演奏会はPRが大事。主要な媒体であるチラシは、団の空気が伝わるものと、馬場さんが団員と話し合いながらデザインします。配布するのは、市内の全ての区民文化センターや公民館、楽器を扱うお店、スーパーや雑貨店など「置いてもらえるところなら全て」です。

さらに馬場さんたちは、定期演奏会に来てくれたお客さんを見て、チラシやホームページだけではない手応えを感じています。「聴きたいと思った人が、他の家族を誘って来てくれている。お母さんたちのネットワークの力で広がっています。それだけ「子連れでもオーケストラを聴きたい」というニーズは高かったのでしょう」と語ります。

楽しむ姿が一番のPR

馬場さんは、子どもがいなかったら音楽は再開していなかっただろうと語ります。「子育てはエネルギーの源。子どもに生のいい音楽を聴かせたいし、常に子どもに誇れる自分でありたいと向上心が湧いてきます。子育てと音楽を両方とも楽しんでいる私たちの姿を見た人に、その楽しい気持ちがストレートに伝われば嬉しいです」。多くのお母さんたちが共感する生き生きと演奏を楽しむ姿が、最大の情報発信だと考えています。

次に参加する大きな演奏会は、12月23日(祝)午後1時半からアステールプラザで行われるチャリティーコンサート「アレスツザメン みんないっしょに」。チケットの売り上げは必要経費を除き、全て障害者支援団体に寄付されます。



▶公民館を利用して定期練習。半数近くの団員が子どもを連れて練習に参加している。子ども同士も友だちになって和気あいあいとした雰囲気



▲「あったかのばし」第3号の取材

私たちが商店街の賑わいを生み出す原動力になれば

【比治山大学広告・マーケティング同好会 コークル】

連絡先 ☎082・229・0123 (比治山大学学生支援室)

地域の魅力を掘り起こし、広く伝えようとしているグループがあります。メンバーは全員大学生。大学で学んだ知識を実践で役立てようとしている同好会をご紹介します。



▶ 広告・マーケティング同好会「コークル」のみなさん。手にしているのはタカノ橋商店街での「1店舗1ポスター」プロジェクトの作品など

比治山大学の「広告会社」

比治山大学広告・マーケティング同好会「コークル」は、昨年10月に結成されたばかりの新しい同好会です。

比治山大学には中四国唯一のマスコミュニケーション学科があり、学生たちは映像や編集、広告・マーケティング、情報メディアなどについて学んでいます。コークルは、同学科の学生たちによって発足しました。顧問を務めるのは同学科の高石勝准教授。「授業だけでなく実践での活動」をモットーにしています。

すでに、学内で使用されるポスターなどについて、学友会から依頼され、いくつか制作を手がけました。内容の打ち合わせから、デザインの叩き台を作つてのプレゼンテーション、実際のコピーライティングやデザインまで学生たちで行います。目指すのは「比治山大学の広告会社」です。

タカノ橋商店街で無料情報誌を創刊！

コークルは昨年10月から今年3月まで、中区のタカノ橋商店街で月1回のイベントに参加しました。「タカノ橋は芸術だ！」をテーマに同商店街振興組合と地元NP

Oが行った活性化イベントに協力し、音楽ライブや似顔絵サービス、ライブペインティングなどを企画。出演者との交渉や、チラシなどPRツールの作成、全体の運営管理まで手がけ、好評でした。

イベントに携わった三木宏美さんは「面白い商店街なのに、意外に若者に知られていない」と感じ、無料情報誌の発刊を企画。編集長として取材をスタートさせました。また同好会として、その他の提案を加えた活性化案を作成し、広島市の「平成21年度商店街活性化プラン支援事業」に応募したところ、補助金を獲得。今年6月、無料情報誌「あったかのばし」を創刊しました。その他、後を追うように複数の企画も進められています。

取材の大変さと、表現の楽しさを知った

「あったかのばし」はA4三つ折り、両面カラーで2千部発行。創刊号では、3つの「老舗」店長に仕事への思いをインタビューして特集しました。編集部お勤めのお店を紹介するレギュラーコーナー「ここイチ」は、日本で初めてモーニングサービスを提供したことで有名な喫茶店を取材しています。

8月に発行した第2号はタカノ橋商店街の歴史を特集。精肉店直営の焼肉店も取材し、臨場感のあるシーンが掲載されています。三木さんは「新発見、再発見がテーマ。自分たちならではの視点で商店街の魅力を掘り下げていきたい」と語ります。

反響について、部長の永井さくらさんは「もっと情報の取捨選択を、という厳しいアドバイスもいただきました。メンバーみんなの発想力を上手にまとめることが必要」と振り返ります。

「あったかのばし」は今後も3カ月に1回の発行を予定。第3号は12月上旬発行です。商店街で広告を募るなど、タカノ橋にしっかり根付くことを目指しています。



◀「あったかのばし」創刊号と第2号。誌名は取材をして感じた人の温かさから「タカノ橋商店街内のお店を中心に設置」

第4回 らしくコラム

こちらのコーナーでは、広島市で活動されている団体・事務局の方に市民活動やボランティアに対する思いをお聞きしています。みなさんの思いと重なり、活動の輪が広がることを願って…。



平岡 節子 ひらおか せつこ

■所属団体 NPO法人 中国キャリアコンサルタント研究会(CCC)

■活動内容 CCCでは、求職者や在職者自らのキャリアビジョンを踏まえた的確な職業選択やキャリアの開発を支援する活動を行っています。

■活動のきっかけ 私は職業訓練所の講師をしていて、雇用能力開発機構で行われたキャリアコンサルタント養成講座を受講したことがきっかけでキャリアコンサルタントになりました。この養成講座の修了者が集まって設立したのがCCCです。

■現在の状況 ひろしま若者チャレンジセミナーの講師およびジョブカード面談を担当するほか、広島県再チャレンジ協議会やアジア人財資金構想プロジェクトなどで若年者・留学生の就業支援を行っています。昨年は国立青少年教育振興機構主催の日独青少年指導者セミナーに参加、困難を抱える青少年に対するドイツの取り組みを2週間に渡って視察してきました。

■連絡先 ☎082-221-9008 Eメール:hiraoka.set@gmail.com

「伝えることと伝わること」

ある夏の朝、これから仕事らしきお母さんが、小さな男の子に留守番の注意を言い聞かせていたが、別れ際にふと思いついたかのように付け加えました。

「あ、それから、○○ちゃんを家にあげたらだめよー汚いから」

男の子はげんそうな顔をしていました。さて、汚いのはお部屋でしょうか、○○ちゃんでしょうか？日本語は主語がいまいな言語だと言われます。いちいち「誰が」とか「何が」とか言わなくても「察する」ことで理解しあうのです。しかし、本当にみんなが正しく察してくれているのでしょうか？

私たちは、ともすれば「受け取った言葉」をその時の自分の気持ちで解釈してしまい、思わぬ誤解をすることがあります。友人同士なら話のやりとりの中でコミュニケーションを図り、言葉にこめられた思いを伝えることもできますが、広報という立場で、不特定多数の人に情報を発信する時には、余程注意して誤解のない表現を心がけないと、思わぬ受け止め方をされて、誤解されたまま終わってしまうかもしれません。

私は今「NPO法人中国キャリアコンサルタント研究会」の会報「ブログ・HP」などを担当しています。

会員向けのブログでは情報をタイムリーに発信し、更新します。ブログにアップする写真は携帯で撮った写真がサイズもちょうど良く、シャッターチャンスも逃しません。HPは一般に公開しているもので、更新を急ぐより、確かな情報を正しく伝えることに重点を置いています。「キャリアコンサルタントって何？」「どんな相談にのつくれるの？」などが、ホームページを見にくる人にわかりやすく伝わるように工夫しています。個人情報保護や肖像権などにも気を配り、原稿は必ず複数の目でチェックするようにしています。

ネット以外にも紙ベースの会報も毎月発行しています。ポリュームのある内容載せることができますので、毎号違うテーマに取り組み、会員とのフィードバックが可能な紙面づくりを心がけています。現在の会員数は80名以上。普段あまりお会いできない遠方に住んでおられる方との絆もあります。文才がない上に締切りに追われて大変だと思ふことも多いのですが、「読んでもらいたい」「伝えたい」気持ちを持ち続け、

「今日はお部屋が汚いんだけど、後でお掃除しておくから、明日○○ちゃんに来てもらおうね」というお母さんの真意が伝わるような文章が書けたらよいな、と思っています。

Q、スポンサー企業の方との接点は？

飛び込みです。なにも営業を知らない学生が飛び込んで、「広島を熱くしたいんです！」という熱意で説得していききました。

Q、今までPRしてきた中で1番効果が大きかった方法は？

やはり自分でスポンサー先に行って、相手にこんなことをしたいという熱意をぶつけることです。自分は、学園祭を支える沢山の人の思いを背負っているということが大きいです。

Q、学生が広島を発信するとありましたが、具体的に何を発信していくのですか？

今後、自分たち学生が県外に行ったとき、自分たち自身が発信材料になり、広島が誇る名産、企業など、広島の良さをアピールしたいです。同時に広島の若者のパワーを感じてもらえたらと思います。地元に住む人ですら知らない、耳よりな情報を知ってもらえるようにやっていきたいです。美味しいものを集めたブースづくり、元気な企業さんによる自社商品の紹介・体験など、そういった機会を大学生がどんどん盛り上げるような、そんな環境を作っていきたいです。

Q、なぜ12月に開催しようと思ったのですか？

10月から11月にかけて各大学や専門学校で学園祭が行われるので、そのフィナーレ的な形になればいいと思ったからです。

取材させて頂いた高木さん、本当にありがとうございました。

12月6日(日)マツダスタジアム(新市民球場) 広島合同大学祭「広島キャンパスフェスティバル'09～First Link～」開催！ 企業、市民、学生が一堂に会する交流イベントです。皆さんぜひ足を運んでみてください。 問い合わせ先：広島キャンパスフェスティバル実行委員会Linkx 代表：高木 090-6418-7131 公式ブログ：http://ameblo.jp/linkx

らしくキャンパス

レポーター 広島市立大学マスコミ研究会 大下、児玉、伊勢村、南、中橋

広島キャンパスフェスティバル実行委員会 Linkx 代表 高木 雄一さん



今回取材させて頂いたのは広島キャンパスフェスティバル実行委員会Linkx代表の高木さんです。

Linkxは、今年の4月、広島県内の大学生が他大学との交流や、広島をもっと元気にしたいという思いから計画。様々な大学メンバーを呼びかけ、自分たちで企業スポンサーを集めるなど、全てが学生のみで運営されています。

Q、なぜマツダスタジアムで行おうと思ったのですか？

去年、広島市民にとってのシンボリックな存在だった広島市民球場が51年の幕を閉じて、今年新たにマツダスタジアムができました。広島を象徴するものは何かと考えたとき、合同大学祭は第1回目でマツダスタジアムも今年が1年目。広島という町を発信して、際には一番良いのではと思ったからです。

Q、宣伝はどのようにして行われているのですか？

主にはメディアです。テレビはもちろん、自分たちのコーナーを持つラジオでは、木曜日14時からFMちゅーピー広島すまいるパフェの一部をお借りして、Linkxメンバーの活動内容紹介やイベント情報の発信などをさせて頂いています。また、広島のアート誌の方々にも協力して頂いています。